

弘前大学大学院  
地域社会研究科  
年 報

第8号

Regional Studies

2011

Regional Studies  
Doctoral Course  
Graduate School of Hirosaki University

## 目 次

### 丹野 正 先生の退職にあたって

丹野先生退職記念インタビュー (聞き手 佐々木純一郎) ……………	1
大学院地域社会研究科の構想・展開・発展の功労者 地域社会研究科長 佐藤 三三 ……………	3

### 論文

テフラを指標とした古代集落研究の方法 ー青森県の平安時代集落を例にー 丸山 浩治 ……………	7
近代の青森市における「企業家ネットワーク」の研究 ー役員兼任と出資の視点からの企業家ネットワークー 南 勉 ……………	29
市場と投資競争 嶋 恵一 ……………	49

### 研究ノート

大正期における実業学校の地域経済への寄与に関する考察 ー青森県立工業学校の「工業伝習」の事例からー 竹村 俊哉 ……………	61
関東山地山中地溝帯に分布する下部白亜系瀬林層中の雨痕について 鎌田 耕太郎 ……………	81
研究科日誌 (2010年10月～2011年9月) ……………	89
弘前大学大学院地域社会研究科 年報投稿要領 ……………	91
弘前大学大学院地域社会研究科 年報執筆要領 ……………	92

## 研究科日誌 (2010年10月～2011年9月)

Chronology (Oct.2010 – Sep.2011)

### ●地域社会研究会研究報告発表会

#### 2010年度 第4回研究報告発表会

2010年10月16日(土)14:00～ 場所:上土手スクエア(弘前市)

- ・「解説・弘前と新幹線開業」  
榎引素夫(1期生 地域政策研究講座)
- ・「道徳性を育むための「道徳の時間」の位置づけに関する研究」  
毛内嘉威(4期生 地域政策研究講座)
- ・「近代の青森県における企業家ネットワークの研究」  
南 勉(6期生 地域産業研究講座)
- ・「江戸時代の防災意識—地震用心—」  
白石睦弥(6期生 地域文化研究講座)
- ・「不思議の国ニッポン」  
赤坂和雄(9期生 地域産業研究講座)

#### 2010年度 第5回研究報告発表会

2010年12月18日(土)13:00～ 場所:大学コンソーシアム青森(青森市)

- ・「中国の金融教育の現状と課題」  
徐 小淑(9期生 地域政策研究講座)
- ・「キャリア教育に対する社会教育からのアプローチについて」  
渡部靖之(9期生 地域政策研究講座)

#### 2011年度 第1回研究報告発表会

2011年6月11日(土)13:00～ 場所:コラボ弘大4階 演習室(弘前市)

- ・「知的障害者のスポーツ活動におけるボランティア環境に関する研究」  
大山祐太(10期生 地域政策研究講座)
- ・「青森県近代教育史の研究～「学制」施行直後を「中心に～」」  
西 敏郎(7期生 地域政策研究講座)

### ●大学院地域社会研究科行事

#### 八戸震災調査関連

- ・4月14日(木)、15日(金) 八戸市避難所調査(地域共同研究センターの調査参加)  
榎 貢
- ・5月30日(月)青森県庁危機管理監訪問  
丹野 正、榎 貢、榎引素夫(1期生)、白石睦弥(6期生)
- ・6月8日(火)八戸市調査了承お願い(相手は八戸市総合政策部長)  
榎 貢

- ・ 7月6日(水)、7日(木)八戸市3地区事前調査と八戸市防災危機管理課訪問  
丹野 正、檜 貢、佐々木純一郎、白石睦弥(6期生)
- ・ 8月25日(木)、26日(金)八戸調査(本調査) 湊地区・白銀地区・市川地区  
丹野 正、檜 貢、佐々木純一郎、白石睦弥(6期生)、野澤敬之(7期生)、大山祐太(10期生)
- ・ 9月29日(月)八戸市行政調査  
丹野 正、檜 貢、佐々木純一郎、大山祐太

●学位論文

〈学位論文公開審査会〉

2011年2月5日(土)10:00～ 総合教育等 404講義室

講座名	氏名	学位論文題名	主査
地域政策	緒方 英樹 (第7期生)	土木リテラシー促進に寄与する広報媒体活用の研究 ～「土木絵本」と「土木偉人アニメーション映像」 による展開～	檜 貢
地域政策	毛内 嘉威 (第4期生)	道徳性を育むための「形成」過程の創造と道徳の時 間の位置づけに関する研究	佐藤 三三
地域政策	田中 泰恵 (第3期生)	「介護実習」をめぐる学校と施設の協働関係の構築 に関する研究 —福祉系高等学校における「介護実習」への提言—	佐藤 三三

# 弘前大学大学院地域社会研究科年報 投稿要領

平成20年9月制定

本年報は弘前大学大学院地域社会研究科によって発行される学術雑誌である。地域社会に関する研究成果を内外の研究者から広く募集し、その成果を掲載発表することにより、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 1. 発行時期

年1回発行する(12月刊行予定)。

## 2. 投稿締切

投稿は随時とするが、当該年度内の本年報に掲載を希望する論文等の投稿締切日については年度初めの原稿募集案内に明記している。

## 3. カテゴリー

提出原稿は「論文」「研究ノート」「その他」という、三つのカテゴリーのいずれかを明示して提出する。

## 4. 提出物

○CDまたはUSB

○ハードコピー(本研究科院生および外部投稿者は3部、本研究科修了者、研究科教員および編集委員会が依頼した執筆者は1部)。

※原稿は図表等のスペースを含めて日本語の場合は32,000字以内(A4用紙1枚につき1,600字、計20頁)とする。ただし要旨の字数は含まない。

※論文及び研究ノートの場合、いずれも英文300wordsの要旨・キーワード(4項目まで)と日本語800字の要旨・キーワード(4項目まで)を含むこと。「その他」の場合は英文タイトルのみとし、投稿者の希望により英文300wordsの要旨と日本語800字の要旨を付すこともできる。

※原稿には投稿者の所属、肩書および連絡先(住所、電話・FAX番号、メールアドレス)を付記し、氏名にはフリガナとローマ字表記を添えること。

## 5. 査読

本研究科院生および外部投稿者により提出された原稿は、2名のレフェリーによる査読を経て、編集委員会において採用の可否を決定する。

## 6. 校正

校正は原則として著者が行い、3校までとする。

## 7. 原稿

原稿は採用の可否にかかわらず返却しない。また掲載された論文等の抜刷りは50部まで無料である。

## 8. Web上の公開に関する手続き

本年度に掲載される論文及び研究ノートはPDFファイルの形で、地域社会研究科のWeb上に公開する。ただし、著者の承諾が得られた論文及び研究ノートは、全内容を公開し、部分的に承諾が得られなかった論文及び研究ノートは、承諾を得られなかった箇所を除いて公開する。Web上に公開された論文及び研究ノートの著作権は、地域社会研究科に帰属する。

また、公開に伴いガード等が必要とされる事項については、編集委員会が対応・処理する。投稿者または投稿者の代表者は、投稿にあたって、「論文及び研究ノートのWeb公開に関する承諾書」(弘前大学大学院地域社会研究科、平成17年10月26日承認)に、署名・捺印し、意思表示を行うものとする。

## 9. 原稿の提出先・連絡先

〒036-8560 弘前大学文京町1番地 学務部教務課教務企画グループ

電話：0172-39-3960(直通) E-mail：jm3960@cc.hirosaki-u.ac.jp

## I. 全般的留意点

1. 原則としてワードプロセッサを使用して作成した原稿を提出する。
2. 原稿は横書きと縦書きの両方も可とする。

## II. 本文

1. 本文が始まる前にタイトル、氏名、要旨、キーワードの順に和文とその英訳を挿入する。タイトルは内容に即して平明・簡潔にする。

2. 項目の区分について

横書きでは

- (1) I, II, III, …… [節]
- (2) 1, 2, 3, …… [項]

縦書きでは

- (1) 一, 二, 三, …… [節]
- (2) (一), (二), (三), …… [項]

3. 数字について

横書きでは原則としてアラビア数字を使う。ただし、本文中ではコンマを用いず、万以上の数字には万、億、兆などを用いる。概数の場合は、十数人、数十年などとする。

[例] 23億500万円 1万2000人 第2次5カ年計画 表1 0～5歳

縦書きでは原則として漢数字を使う。 [例] 二十三億五百万円

4. 年は西暦を使用する。特別の暦法による暦を使用する場合には西暦年を [ ] で付記する。

5. ワードプロ印刷設定にあたっては、行間を十分あける。大文字・小文字、数字、アルファベットの違いを明確にする。とくに [一] と [-] の違いに留意すること。

## III. 文献の引用および注

1. 文献の引用および注は、横書きでは原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付きの番号で表示する。[例] 三内丸山遺跡<sup>5)</sup>は、……である<sup>6)</sup>。

縦書きでは原則として本文中の該当箇所の右に両括弧付きの番号で表示する。[例] 藩。

2. 出典または注は、本文末尾に一括して番号順に記載する。その際、雑誌の場合は、著者名、論文等の題名、掲載雑誌名、巻・号、頁、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、頁、発行年を記載することを原則とする。[例] 福島真人「内面とカージャワ神秘主義と伝統的政治モデル」『民族学研究』52(4)(3月)pp.330-350、1988年。

3. 前出の文献を再び引用する場合は前掲、続けて同じ文献を引用する場合は同上で表記する。

[例] 前掲「内面とカージャワ神秘主義と伝統的政治モデル」 pp.351。

同上書(論文)、pp.352。

#### IV. 図表、写真等

1. 1図、1表、1写真ごとに本文とは別に原稿用紙1枚ずつにまとめる。図、表の番号はそれぞれ、図1、表1のように通し番号とし、写真は図として扱う。図の場合にはその下に、表の場合にはその上に、番号とともに見出しを入れる。必ず単位、出所を明記する。

[例]

表1 2006年産日本りんごの主な輸出先およびその数量

単位：トン

台湾	香港	タイ	中国	アメリカ	インドネシア	ロシア
22,123	352	205	197	60	44	36

(注)台湾、香港から中国大陸への再輸出分は考慮していない。

(出所)財務省「日本貿易統計」2007年5月。

2. 横書き、縦書きともに、図・表等は縮尺を明示して、文中に挿入する場所を指定する。ただし、カラーページに関しては論文末に一括して掲載して、負担を軽減する。

## 執筆者紹介

### 論文

[在学者]

南 勉：弘前大学大学院地域社会研究科(後期博士課程)地域産業研究講座 在学中

丸山 浩治：弘前大学大学院地域社会研究科(後期博士課程)地域文化研究講座 在学中

[教員]

嶋 惠一：弘前大学大学院地域社会研究科(後期博士課程)地域産業研究講座

### 研究ノート

[在学者]

竹村 俊哉：弘前大学大学院地域社会研究科(後期博士課程)地域産業研究講座 在学中

[教員]

鎌田耕太郎：弘前大学大学院地域社会研究科(後期博士課程)地域政策研究講座

## 編集委員会

嶋 惠 一(委員長)  
森 樹 男  
小 岩 直 人  
児 玉 忠  
大 坪 正 一  
藤 田 昇 治

弘前大学大学院  
地域社会研究科  
年報  
第8号  
2011年12月

平成23年12月20日印刷  
平成23年12月28日発行

編集兼発行者

弘前大学大学院  
地域社会研究科  
弘前市文京町3番地  
電話 0172-36-2111(大代表)

印刷所 やまと印刷株式会社  
住 所 弘前市神田4-4-5  
電 話 0172-34-4111



2011年12月

弘前大学大学院  
地域社会研究科